



【実践会 25年9月】 推奨ファンドのご紹介



私たちの考える“将来を託すに値するファンド”

- 利益成長率の高い企業に厳選投資している
(しかも他の投資家がその利益成長を見過ごしている)
- 参入障壁が高く、価格支配力を有する技術、商品、経営
(利益予想が下振れしないために必要な条件)
- 運用会社が投資家と同じ船に乗るという思想を有している
(運用者も自分の資産を投入)

“生涯保有し続けたいファンド”とは？

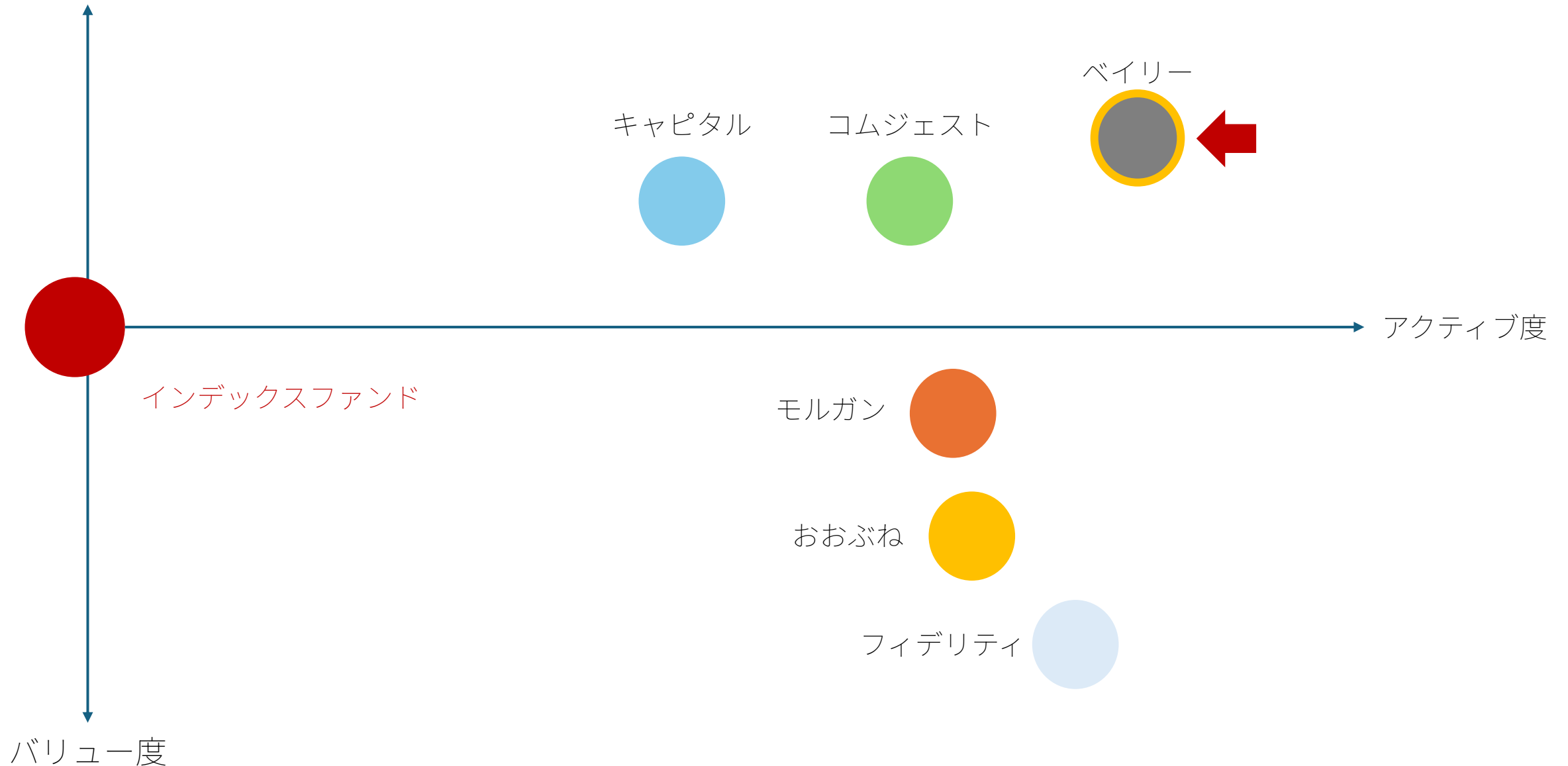
私たちの考える“信頼できる運用会社”

- 日系よりは外資系、金融機関係（系列）よりは独立系、株式公開よりも非公開に多い（例外あり）
- 短期的な資産増加よりも、長期的な資産積上げを重視する姿勢
- 運用会社が投資家と同じ船に乗るという思想を有している
(運用者も自分の資産を投入)

“信頼できる運用会社”とは？

グロース度

6ファンドのポジショニング（イメージ図）





ファンド名	実質的運用者	運用哲学・アプローチ	銘柄数	投資対象（代表例）	リスク（5段階）
ベイリー・ギフォード 世界長期成長株ファンド 愛称：ロイヤルマイル	ベイリー・ギフォード （スコットランド）	長期視点の成長株投資 投資アイデアの発掘において様々な観点から情報収集し、産業の魅力度や経営陣のクオリティを徹底して調査。成長シナリオの確信度によってウェイトを決定。	40 銘柄前後	アマゾン、エヌビディア、クラウドフレア、ネットフリックス、ロブロックス、スポティファイ、シー、テンセント、クーポン、アップラビン	★★★★★
キャピタル 世界株式ファンド	キャピタルグループ （米国）	GARP：Growth at a Reasonable Price 両アナリスト（株式/債券）の見識を共有し銘柄を選定。マルチポートフォリオマネージャー運用を1つのポートフォリオとしファンドを運用（キャピタルシステム）	270 銘柄前後	メタ、マイクロソフト、ブロードコム、台湾セミコンダクター、テスラ、エヌビディア、ネットフリックス、アルファベット、ロイヤル・カリビアン・クルーズ、アストラゼネカ	★★★★★
SBI・コムジェスト・クオリティグロース・世界株式ファンド	コムジェスト （フランス）	クオリティグロース株投資 景気変動に左右されにくい、安定して高い利益セ長が持続できる企業に厳選投資を行う。長期的視点での企業調査に基づき銘柄を長期保有する。投資判断においては、複数の運用担当者が全員一致することもユニークな点の一つ。	30～50 銘柄	台湾セミコンダクター、マイクロソフト、リンデ、ビザ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、インテュイット、エシロールルックスオティカ、アルファベット、アルコン、アマゾン・ドットコム	★★★★★
フィデリティ・ 世界割安成長株投信 （テンバガー・ハンター）	フィデリティインベストメンツグループ （米国）	割安成長株投資 将来的に株価が10倍になる可能性を秘めた企業を発掘し投資することがファンド名にもなっているが、企業の長期的な成長力と株価の割安度の両面に着目。本ファンドもキャピタル同様にGARP（Growth at a Reasonable Price）の考え方でバリュー投資とグロース投資の要素を組み合わせ	580 銘柄前後	ウェルス・ファーゴ、パフォーマンス・フード・グループ、TDシネックス、アリマントーション・クシュタール、スティーフル・フィナンシャル、PG&E、ボンティエ、オビンティブ、DCC、レイモンド・ジェームズ・フィナンシャル	★★★★★
モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム 株式オープン	モルガン・スタンレー・ インベストメント・マネ ジメント（英国）	成長株投資 高い収益力、参入障壁や優れたブランド力を持つ、持続的な成長が見込める企業に厳選投資。	原則 20～40 銘柄	マイクロソフト、SAP、ビザ、ロレアル、アーサー・J・ギャラガー、コカ・コーラ、P&G、エーオン、アルファベット、ローパーテクノロジーズ	★★★★
農林中金＜パートナーズ＞ おおぶねグローバル （長期厳選）	農林中金バリューインベ ストメンツ（NVIC） （日本）	長期厳選投資 北米、日本、欧州の中で、更に持続的に利益を生みだすと考えられる構造的に強靱な企業（付加価値の高い産業、圧倒的な競争優位、長期的な潮流）に厳選して長期投資し、安定的なリターンを目指す	20～30 銘柄	東京海上HD、アトラスコブコ、シャーウィン・ウィリアムズ、エドワーズライフサイエンス、S&Pグローバル、ビザ、テキサスインスツルメンツ、信越化学、ジャック・ヘンリー・アンドアソシエイツ、コンパスグループ	★★★★



	ベイリー・ギフォード 世界長期成長株ファンド 愛称：ロイヤルマイル	キャピタル 世界株式ファンド	SBI・コムジエスト・クオ リティグロース・世界株式 ファンド	フィデリティ・ 世界割安成長株投信 (テンバガー・ハンター)	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム 株式オープン	農林中金＜パートナーズ＞ おおぶねグローバル
設定日	2019年1月31日	2007年10月29日	2021年3月30日	2020年3月23日	2012年2月17日	2020年3月19日
トータルリターン (3年) 年率	22.66%	19.04%	14.94%	15.90%	10.95%	12.28%
トータルリターン (5年) 年率	10.97%	16.94%	—	19.86%	12.57%	11.77%
トータルリターン (10年) 年率	—	12.93%	—	—	11.36%	
リスク (3年) 年率	22.45%	14.57%	14.95%	14.70%	12.39%	12.52%
リスク (5年) 年率	25.58%	15.49%	—	14.64%	12.43%	13.34%
リスク (10年) 年率	—	16.44%	—		13.27%	



ベイリー・ギフォード 世界長期成長株ファンド 愛称：ロイヤルマイル			キャピタル 世界株式ファンド		SBI・コムジェスト・クオリ ティグロース・世界株式ファ ンド		フィデリティ・ 世界割安成長株投信 (テンバガー・ハンター)		モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム 株式オープン		農林中金<パートナーズ> 長期厳選投資おおぶね	
1	アメリカ	48.9%	アメリカ	54.6%	アメリカ	47.6%	アメリカ	47.6%	アメリカ	76.1%	アメリカ	49.7%
2	中国	15.1%	フランス	8.0%	フランス	11.6%	日本	11.4%	ドイツ	7.6%	日本	13.7%
3	ブラジル	6.1%	英国	6.0%	英国	9.1%	英国	8.5%	フランス	5.2%	スイス	7.9%
4	オランダ	5.7%	日本	3.5%	台湾	8.9%	カナダ	3.2%	英国	3.7%	スウェーデン	4.3%
5	シンガポール	4.4%	カナダ	3.3%	スイス	7.3%	フランス	2.6%	アイルランド	3.1%	ドイツ	4.0%
6	スウェーデン	4.0%	台湾	3.2%	オランダ	5.1%					フランス	4.0%
7	韓国	3.3%	ドイツ	2.7%	日本	4.9%					デンマーク	3.8%
8	台湾	2.6%	スイス	2.2%	ドイツ	1.1%						
9	カナダ	2.4%	オランダ	2.1%								
10	フランス	1.6%	中国	2.0%								



ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド 愛称：ロイヤル・マイル



ベイリー・ギフォード社の紹介

- 1908年 スコットランド・エディンバラに設立
- 独立の運用会社（パートナーシップ制）
- 運用助言資産残高：40.5兆円超※2023年12月末
- 年金の比率：44%
- 投資哲学：揺るぎない信念、長期投資

<ポイント>

- ・年金は長期視点が非常に重要な資金
- ・長きにわたり運用してきた成果が評価される世界
- ・恐慌やバブルなど平坦ではない金融市場での変化にも長期投資を貫く信念

Baillie Gifford™ Actual Investors

Baillie Gifford are long-term investors, not speculators

揺るぎない信念、長期投資



引用：三菱UFJアセットマネジメントHPより

邪魔されずに突き進む

引用：Baillie Gifford HPより

- 投資運用は長期的なビジネスであるべきです。
- 私たちは、長年にわたり蓄積してきたリサーチと洞察に基づいてポートフォリオを構築しています。
- お客様の資金を投資する際には、業界の通常よりも長い期間、資産を保有することを意図しています。
- 当社は独立したプライベート・パートナーシップという立場が、お客様にとって有利に働くと考えています。外部株主や外部からの金銭的義務を負っていません。つまり、短期的な利益や配当の支払いに囚われることはありません。そのため、成功しない可能性もある機会にも自由に投資できます。しかし、成功するとしても、その潜在能力を発揮するまでに数四半期ではなく数年かかる可能性があり、他社は同様の方針を持っていません。すべての投資が数年かかるわけではありませんが、こうした機会に投資できることは、当社が他社と差別化を図る上で重要な要素です。

独立したパートナーシップ

ベイリー・ギフォードには、2025年4月1日現在、59名のパートナーがいます。彼らの平均在籍年数は20年以上です。

3名のマネージングパートナーが全体のリーダーシップを分担しています。現在の担当パートナーは以下の通りです。



エイミー・アタック

エイミーは、株式チームのリソース配分と育成を統括する権限を持ち、人事も統括しています。2004年に当社に入社し、2021年に株式部門のチーフ・オブ・スタッフ、2024年にマネージング・パートナーに就任しました。それ以前は、新興国株式チーム、その後クライアント部門に勤務していました。



マルコム・マコール

マルコムは当社の投資部門を統括しています。1999年に入社し、2021年にマネージングパートナーに就任しました。また、グローバルアルファチームの投資マネージャーも務めています。



ティム・キャンベル

ティムは2012年から当社のパートナーを務め、2025年4月にマネージングパートナー兼CEOに就任しました。他の2名のマネージングパートナーと共に、パートナーシップの管理に加え、当社の戦略策定と実行を担っています。ティムは1999年にベイリー・ギフォードに入社し、新興市場株式チームの投資マネージャーを務めた後、2007年に顧客部門に異動しました。1997年にダブリンのトリニティ・カレッジで歴史学の学士号を取得しています。



項目	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	MSCIワールドインデックス
運用手法	アクティブ運用	パッシブ運用（インデックス運用）
投資目的	指数を上回る超過リターンの追求	指数と同等のリターン獲得
銘柄選定	独自調査に基づく厳選（30～60銘柄）	時価総額に基づく機械的選定（約1,400銘柄）
投資対象	世界の成長企業（新興国を含む）	先進国の大型・中型株（新興国を含まない）
コスト	高い（調査・運用コスト）	低い

ロイヤル・マイルが活用する「LTGG：ロングターム・グローバル・グロース戦略」とは

Long Term = 長期的な視点（短期的な株価や業績の変動にとらわれることなく、より多くの投資機会を発掘します。）

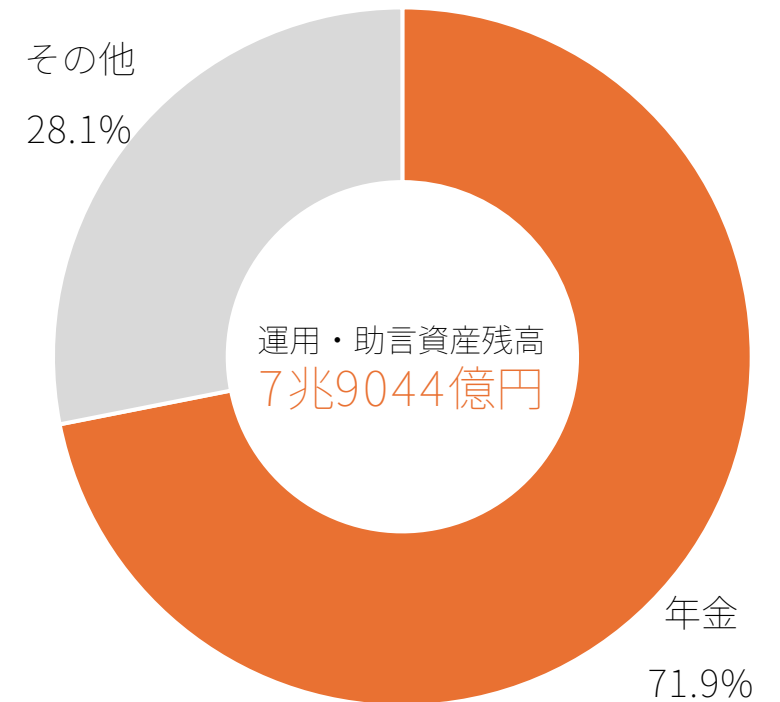
Global = 世界の株式が投資対象（新興国を含む世界の株式から、企業の魅力度に応じて投資配分を決定します。）

GroWth = 成長性に期待（5年、10年の長期で継続可能な成長力を持つ企業に投資を行うことにより、時間の経過と共に大きなリターンの獲得をめざします。）

ベイリー・ギフォード社は成長株への長期投資に強みを有し、スコットランドで100年以上にわたり長期投資を実践してきた運用会社です。同社のLTGG戦略は、優れた運用実績を積み上げるとともに、長期的な視点が重視される年金基金などから支持を集めてきました



(2025年5月末時点)
LTGG戦略の残高に占める年金の割合



(三菱UFアセットマネジメント2025年7月11日リリース資料より抜粋)



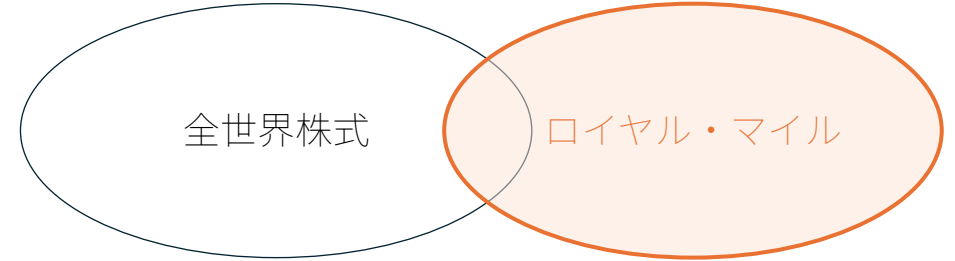
ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド

運用会社	ベイリー・ギフォード社 (Baillie Gifford)
投資哲学	短期的な市場変動に左右されず、今後10年以上にわたり持続的な成長が期待できる企業を厳選して投資します。 (国や地域、業種、時価総額に捉われずに、個別企業に対する独自の調査に基づいて、長期の視点で高い成長が期待される企業の株式等に厳選して投資)
運用方針	詳細なボトムアップ分析をもとに、 <u>革新的なビジネスモデルと強い競争優位性を持つ企業に集中投資</u> を行います。また、新興国を含む幅広い地域へ投資機会を追求します。

目論見書上の記載	
ファンドの目的	日本を含む世界各国（新興国を含みます。以下同じ。）の株式等を実質的な主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
ファンドの特色	長期の視点で成長が期待される世界各国の株式等に投資を行います。 外国投資法人の運用は、ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッドが行います。 原則として、為替ヘッジは行いません。 年1回の決算時（1月25日（休業日の場合は翌営業日））に分配金額を決定します。

アクティブシェア（2025年5月末）

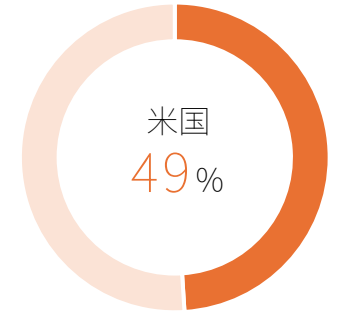
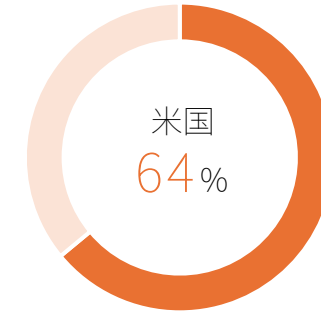
アクティブシェア約 **89%**



米国の組入割合（2025年5月末）

全世界株式

ロイヤル・マイル



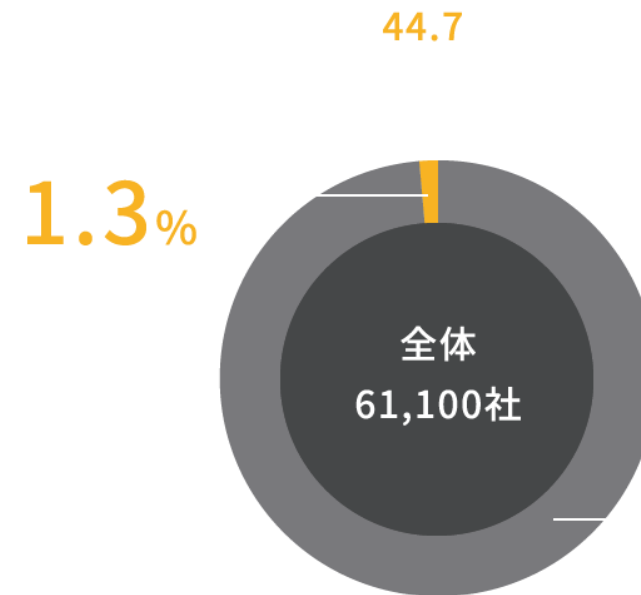
～世界中の企業が創出した株式価値44.7兆米ドルと同じ株式価値を生み出した株式価値上位企業の割合～

1990年から2018年の期間で、
世界中の企業が創出した株式価値の44.7兆米ドルは上位1.3%の企業によって生み出された価値と同じです。
こうしたことから、長期で見ると株式投資における銘柄選定は極めて重要であると考えます。

株式価値の増減額と企業数

	企業数	創出した株式価値 (兆米ドル)
全体	61,100	44.7
株式価値が減少した企業	37,195	-21.8
株式価値が増加した企業	23,905	66.6

44.7兆米ドルと同じ株式価値を生み出した 株式価値上位企業の割合



(出所)

Hendrik Bessembinder他著『Do Global Stocks Outperform US Treasury Bills?』(2019)を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

株式価値とは、当該期間において、その銘柄に投資したことによる収益を表しています(当該期間中の配当再投資を含む株式リターン＝米国の1ヵ月物の財務省証券のリターン)



独自の銘柄選定基準「10のチェックポイント」

銘柄の選定にあたっては、国や地域、業種、時価総額に捉われることなく、長期の視点で高い成長が期待される企業を厳選します。

具体的には、産業の魅力度、企業の競争力、財務基盤の強さ、経営陣の資質、バリュエーションから構成される10のチェックポイントを用いています。

10のチェックポイントを用いることで、企業調査において一貫性のある投資プロセスを踏むことが可能になり、過剰なデータやノイズに振り回されなくなると考えています。

✓ 銘柄を選ぶ10のチェックポイント

産業の魅力度	✓ 1 今後5年で売上が2倍になる余地があるか？ ✓ 2 それ以降の見通しはどうか？
企業の競争力	✓ 3 競争優位な点は何か？ ✓ 4 企業文化は他社と明確に差別化されているか？事業環境の変化に順応可能か？ ✓ 5 なぜ顧客はその企業を好むのか？その企業の長期的な成長にとって最も重要な社会的要素は何か？
利益創出力の強さ	✓ 6 企業の稼ぐ力は魅力的か？ ✓ 7 企業の稼ぐ力は向上するのか？それとも低下するのか？
経営陣の資質	✓ 8 どのように資本配分をしているのか？（設備投資、配当や撤退戦略等）
バリュエーション	✓ 9 株価が5倍以上になる可能性は？ ✓ 10 なぜ市場は見過ごしているのか？



ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンドが長期にわたってMSCIワールドインデックスを上回るリターン。
これは、同社が掲げる「長期的な成長が期待できる企業への集中投資」という運用哲学が成果を出しており、長期間になるほどその差が顕著になります。これは、短期的な市場の変動に惑わされず、長期的な成長シナリオに基づいた投資を貫いてきた結果です。

ファンドの標準偏差（リスク）はMSCIワールドインデックスよりも一貫して高い。
高いリスクは、集中投資という運用手法に起因します。広範な銘柄に分散投資するMSCIワールドインデックスと異なり、ロイヤル・マイルは集中投資するため、特定の銘柄の株価が大きく変動するとファンド全体のパフォーマンスに大きな影響を与えます。

項目	期間	ロイヤル・マイル
年率リターン	1年	33.15%
	3年(年率)	22.66%
	5年(年率)	10.97%
	10年(年率)	—
リスク (標準偏差)	1年	21.72%
	3年(年率)	22.45%
	5年(年率)	25.58%
	10年(年率)	—

組入（業種）		組入上位（国・地域）	
情報技術	29.2%	アメリカ	48.9%
一般消費財・サービス	27.6%	中国	15.1%
コミュニケーション・サービス	20.2%	ブラジル	6.1%
ヘルスケア	7.4%	オランダ	5.7%
金融	5.8%	シンガポール	4.4%
資本財・サービス	4.6%	スウェーデン	3.3%
生活必需品	3.3%	韓国	2.6%
		台湾	2.4%
		フランス	1.6%



設定来パフォーマンス





まとめ

<対象>

- 10年以上の長期で運用を行うことができる方
- 資金量がある程度ある方
- 短期間では大きな乱高下となることを許容できる方
- つみたて投資を行う方

<特徴>

1. ロイヤル・マイルは運用会社として非常に魅力度の高い会社
2. パートナシップ制や運用哲学や運用方針、スタイルが一貫している
3. 長年の運用成果（トラックレコード）
4. これぞ「アクティブ」にふさわしいファンドの一つ